

2020年度（2021年3月期） 通期 決算説明会

2021年 4月 28日
セイコーエプソン株式会社

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て 比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- ご説明のポイント
- 第4四半期実績
- 2020年度通期実績
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

第4四半期 実績

- 売上収益 : 2,779億円 (対前年同期 303億円増収)
 - COVID-19影響で落ち込んだ需要の回復が進む
- 事業利益 : 157億円 (対前年同期 117億円増益)
 - プリンター事業を中心に増益

2020年度 通期実績

- 売上収益 : 9,959億円 (対前年度 476億円減収)
 - 在宅印刷需要のプラス効果の一方で、上期中心にCOVID-19影響を受けた
- 事業利益 : 616億円 (対前年度 207億円増益)
 - 在宅印刷需要継続によるインク販売増加、販売価格上昇、費用削減の徹底

2021年度 通期業績 予想

- 売上収益 : 10,700億円 (対前年度 740億円増収)
 - COVID-19影響からの市場正常化が進む中、成長領域への投資と成熟領域の業績改善を進める
- 事業利益 : 600億円 (対前年度 16億円減益)
 - 多くの事業で増益を見込む一方で、在宅印刷需要が一段落するオフィス・ホームプリンティングで減益

- 本日のご説明のポイントはご覧のとおりです。
- 詳細は、次のスライド以降でご説明します。

- ご説明のポイント
- **第4四半期実績**
- 2020年度通期実績
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

2020年度 第4四半期決算 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2019年度		2020年度		対前年同期		
	(億円)	Q4実績	%	Q4実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,476		2,779	+303	+12.3%	
事業利益		40	1.6%	157	+117	+293.2%	
営業利益		24	1.0%	137	+112	+455.6%	
税引前利益		32	1.3%	151	+118	+364.6%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		-167	-6.8%	106	+274	-	
EPS ^{*1} (円)		-48.55		30.72			
為替レート (円、指数)	USD	¥109.00		¥105.86			
	EUR	¥120.18		¥127.68			
	その他通貨 ^{*2}	100		99			
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-25	+27	-4	-2
		事業利益		+5	+17	-7	+15

*1 EPS: 基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替レームに応じて加重平均した値について、前年同期を100とした指数

© Seiko Epson Corporation, 2021 5

- それでは、第4四半期の実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期に対して 303億円 増収の 2,779億円、
事業利益は、117億円 増益の 157億円、
四半期利益は、274億円 増益の 106億円 となりました。

- 売上収益 2,779億円（303億円の増収）
 - COVID-19影響からの回復
 - 多くの商品で部材不足と物流の混乱による供給問題継続

- 事業利益 157億円（117億円の増益）
 - 在宅印刷需要が継続
 - プリンター事業のIJP本体販売価格上昇
 - 商業・産業IJPの増収影響
 - ビジュアルコミュニケーションのホームプロジェクター売上増と固定費削減

- 四半期利益 106億円（274億円の増益）
 - 事業利益の増益により各段階利益で増益
 - 税金費用は繰延税金資産の取り崩しがあった前年同期より減少
 - その他営業費用にウェアラブル機器事業の減損損失（39億円）計上

- 第4四半期決算のポイントをご説明します。

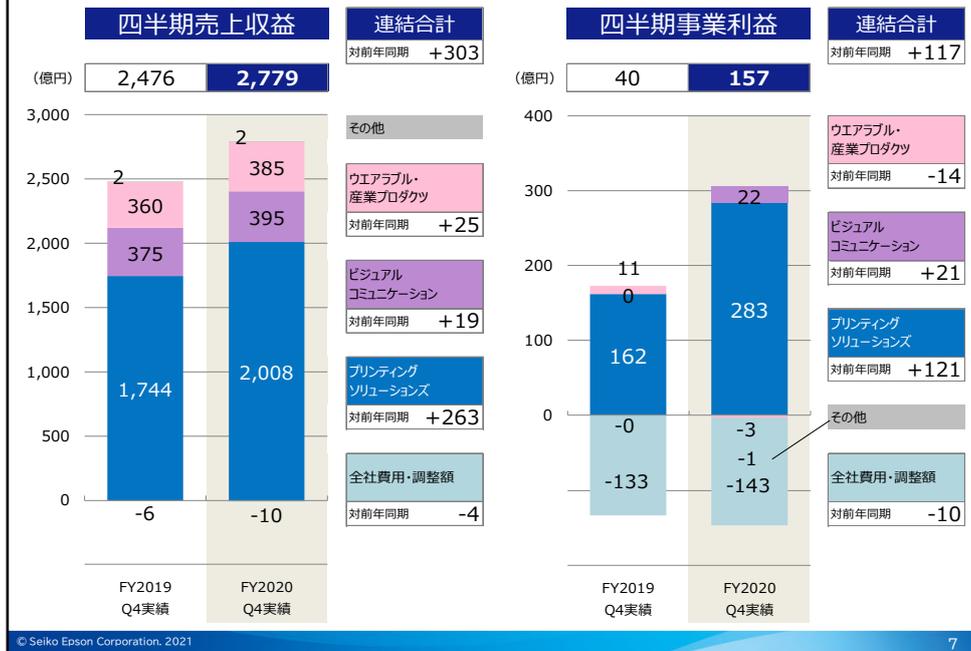
- 売上収益につきましては、新型コロナウイルス影響から大きく落ち込んだ前年同期からの回復が進み、大幅な増収となりました。
しかし一方で部材不足と物流の混乱による供給問題は継続しました。

- 事業利益は、プリンティングソリューションズやビジュアルコミュニケーションの増収影響に加え、ビジュアルコミュニケーションの固定費削減などにより増益となりました。

- 四半期利益は、事業利益の増益に加え、税金費用が減少したことで大幅な増益となりました。
- これは前年同期に繰延税金資産の取り崩しがあったことによります。

- なお、その他営業費用に、ウェアラブル機器事業の中期事業戦略を見直した結果、減損損失を39億円計上しました。
- 新型コロナウイルス影響の長期化による、収益性の低下により計上した第3四半期分と合わせ、当連結会計年度におけるウェアラブル機器事業の減損損失は75億円になりました。

2020年度 第4四半期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、事業セグメント別の前年同期比較です。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

2020年度 第4四半期実績 | プリンティングソリューションズ EPSON
EXCEED YOUR VISION

プリンティングソリューションズ	2019年度 Q4実績	2020年度 Q4実績	(億円)	
			対 前年同期	為替 影響額
売上収益	1,744	2,008	+263	-4
プリンター	1,204	1,402	+198	
構成比 オフィス・ホームIJP	85%	87%		
SIDM	5%	5%		
その他	10%	8%		
プロフェッショナルプリンティング	470	530	+60	
構成比 商業・産業IJP	66%	69%		
小型プリンター他	34%	31%		
その他	70	74	+4	
事業間売上収益	-0	-0	+0	
セグメント利益	162	283	+121	+12
セグメント利益率	9.3%	14.1%		
◆ オフィス・ホームIJP販売動向 (社内管理値に基づく指標)	FY19/Q4 実績	FY20/Q4 実績		
本体	売上収益 YoY伸長率 円貨 +4%	+36%		
	現地通貨 +9%	+37%		
	販売数量 YoY伸長率 円貨 +3%	+14%		
インク	売上収益 YoY伸長率 円貨 -2%	-1%		
	現地通貨 -0%	-1%		
オフィス共有IJP ¹⁾	売上収益 オフィス・ホームIJP内 比率 ²⁾ 10%	11%		

プリンター事業

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・在宅印刷需要が継続しインク販売堅調
 - ・大容量インクタンクモデル販売好調
 - ・本体販売価格が上昇
 - ・オフィス共有IJP販売は着実に伸長
- ◆ SIDM
 - ・中国で需要回復

プロフェッショナルプリンティング事業

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・完成品ビジネスは、需要が回復し成長領域で増収
 - ・プリントヘッド外販ビジネスは、中国向け販売拡大
- ◆ 小型プリンター
 - ・米州案件獲得により増収

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/CEモデル、RIPS、IJの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を遡及修正

© Seiko Epson Corporation, 2021 8

- プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- プリンター事業、プロフェッショナルプリンティングともに増収となりました。
- プリンター事業は、オフィス・ホームIJPについて、在宅印刷需要が継続するなか、大容量インクタンクモデルの販売台数が伸長したことに加え、平均販売単価の上昇もあり、本体売上収益は増収となりました。
- インク販売は、大容量インクタンクモデルへのシフトを続ける中、インクカートリッジモデルの本体稼働台数は減少していますが、前年同期並みの売上収益となりました。
- オフィス共有IJPは、中速帯以下の需要を取り込み、西欧を中心に販売が伸長しました。
- また、高速ラインインクジェット複合機も、日本・中国で文教向けを中心に販売が伸長しました。北米では、新型コロナウイルス影響がある中でもディーラー開拓を進めました。
- SIDMは前年同期からの需要回復を背景に増収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、商業・産業IJPが増加し、また小型プリンターでも米州で案件の獲得などがあり、増収となりました。
- 商業・産業IJPの完成品ビジネスは、地域によって若干の濃淡はあるものの、需要が回復しサインページ、テキスタイル、ラベルといった成長領域で増収となりました。
- プrintヘッド外販ビジネスは、中国市場の需要が回復していることに加え、新規顧客獲得も順調に進み、増収となりました。
- セグメント利益は、大容量インクタンクモデルの増収影響に加えて、販売価格の上昇があり、大幅な増益となりました。
- この結果、セグメント利益に占めるプリンター事業の割合は6割程度となりました。

ビジュアルコミュニケーション		2019年度 Q4実績	2020年度 Q4実績	(億円)		対 前年同期	為替 影響額	◆ プロジェクター ・ COVID-19影響からの回復基調継続 ・ ホームプロジェクター販売増
売上収益		375	395			+19	+4	
セグメント利益		0	22			+21	+6	
セグメント利益率		0.2%	5.6%					
◆ プロジェクターの販売動向 (社内管理値に基づく指標)								
		FY19/Q4 実績	FY20/Q4 実績					
	円貨	-20%	+4%					
本体	売上収益 YoY伸長率							
	現地通貨	-17%	+3%					
	販売数量 YoY伸長率	-16%	-6%					

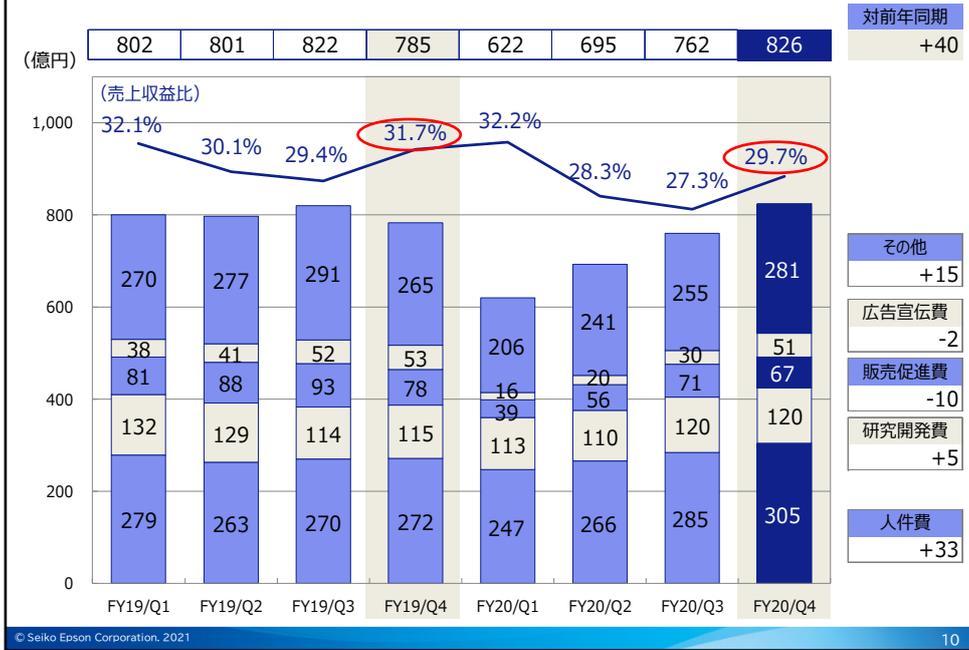
ウェアラブル・産業プロダクツ		2019年度 Q4実績	2020年度 Q4実績	(億円)		対 前年同期	為替 影響額	◆ COVID-19影響長期化による売上低迷 ◆ ロボティクスソリューションズ ◆ 中国向け中心に販売増加 ◆ マイクロデバイス他 ◆ 水晶デバイス ・ 通信ネットワーク市場向け等で好調 ◆ 半導体 ・ 需要が堅調に推移
売上収益		360	385			+25	-3	
ウェアラブル機器		90	71			-18		
ロボティクスソリューションズ		58	72			+13		
マイクロデバイス他		221	248			+26		
事業間売上収益		-10	-6			+3		
セグメント利益		11	-3			-14	-3	
セグメント利益率		3.1%	-0.9%					

© Seiko Epson Corporation, 2021 9

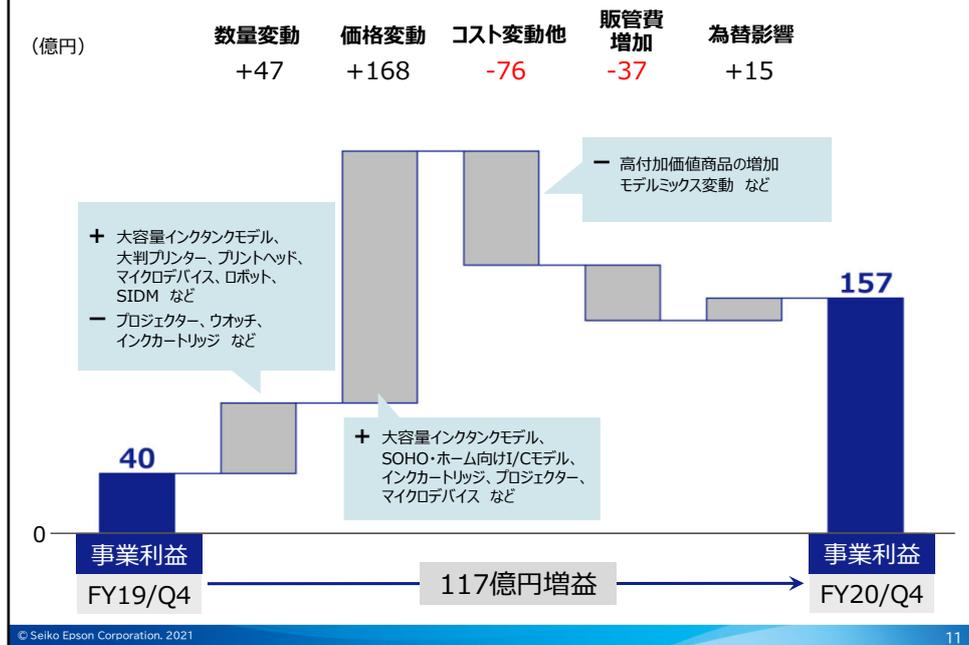
- ビジュアルコミュニケーションは、新型コロナウイルス影響からの回復基調が継続しています。
- その中で、特に巣ごもり需要の高まりからホームプロジェクターの販売が伸長しました。
- また、費用構造の見直しと費用抑制を継続し、増益になりました。

- ウェアラブル・産業プロダクツは、セグメント全体では前年同期を超える売上を達成しましたが、各事業の状況は異なりました。
- ウェアラブル機器は、新型コロナウイルス影響が長期化し、減収となりました。
- ロボティクスソリューションズでは、中国向けを中心に販売を伸ばし、前年同期を上回りました。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイス、半導体で旺盛な需要を背景に、堅調に推移しました。
- セグメント利益は、ウェアラブル機器の減収影響や、ロボティクスソリューションズでの将来成長を見据えた費用増などがあり、減益となりました。

販売費および一般管理費 主要科目別推移

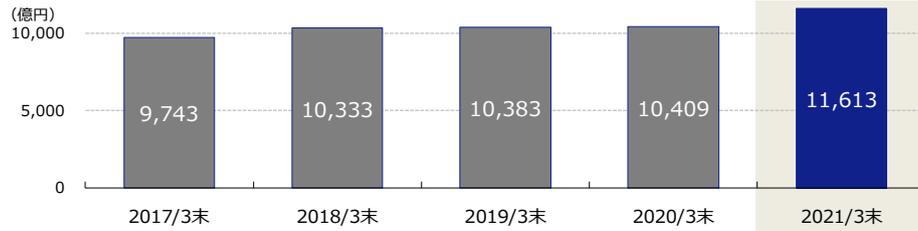


- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 第4四半期は、前年同期と比較し広告宣伝費や販売促進費を抑制しましたが、業績に連動して発生する人件費が増加したため、全体として費用が増加しました。
- しかし、売上収益比は前年同期比で低下しています。

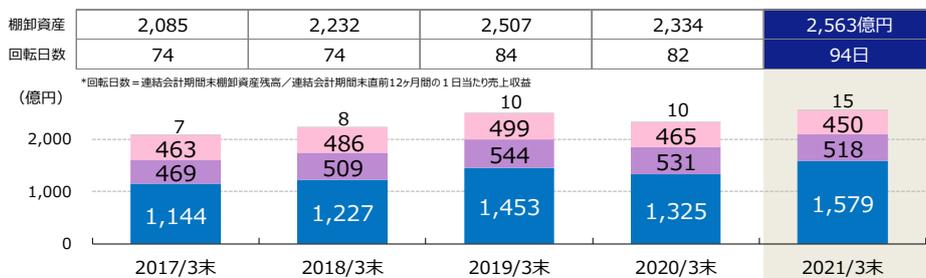


- 事業利益の増減要因分析はご覧の通りです。
- 数量変動は、プロジェクター、ウォッチ、インクカートリッジなどでマイナスとなりましたが、大容量インクタンクモデル、プリントヘッド、大判プリンターなど、戦略商品でプラスとなりました。
- 価格変動は、インクジェットプリンターの販売価格上昇に伴うプラスの影響の他、プロジェクターのモデルミックス変動や、マイクロデバイスなどでもプラスとなり、大きな増益要因となりました。
- コスト変動他は、モデルミックス変動などもありマイナスとなりました。

資産合計

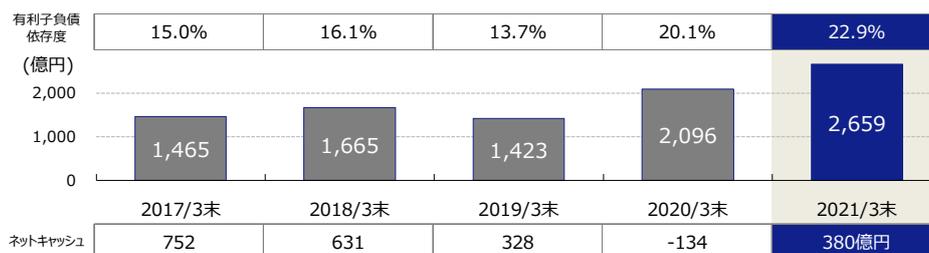


棚卸資産・回転日数

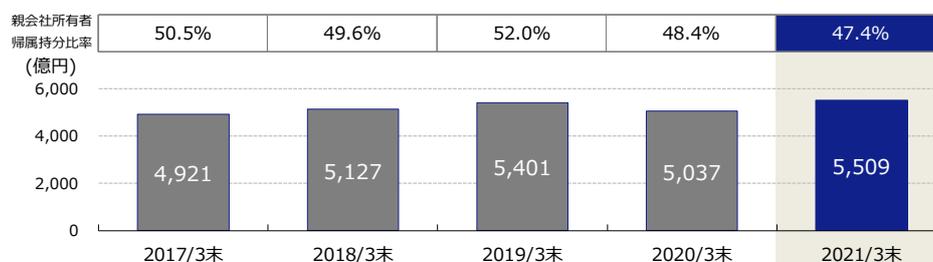


- 続きまして、財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前年度末に対して1,204億円増加し、1兆1,613億円となりました。これは、現金及び現金同等物のグリーンボンド発行などによる増加、ならびに棚卸資産の増加などによるものです。
- 棚卸資産は、2,563億円となりました。これは部材不足、物流の混乱により、製造在庫が増加していることによります。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、グリーンボンド発行などにより前年度末に対して562億円増加し、2,659億円となりました。
- ネットキャッシュは380億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、前年度末に対して471億円増加し、5,509億円となりました。

- ご説明のポイント
- 第4四半期実績
- **2020年度通期実績**
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

2020年度 通期決算 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

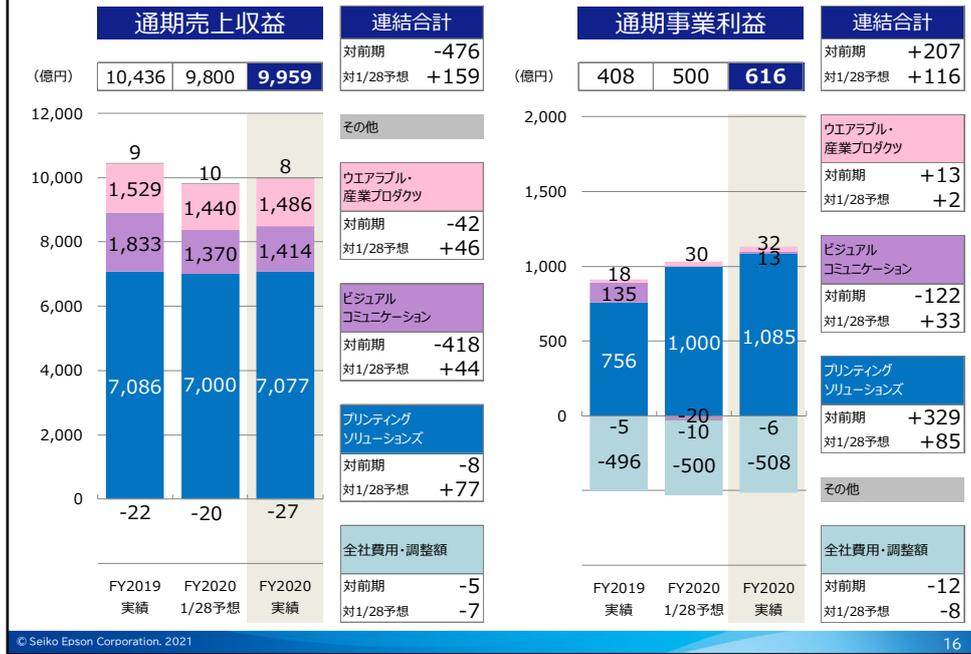
	2019年度		2020年度				増減額/増減比		
	(億円)	実績	%	1/28予想	%	実績	%	対前期	対1/28予想
売上収益		10,436		9,800		9,959		-476 -4.6%	+159 +1.6%
事業利益		408	3.9%	500	5.1%	616	6.2%	+207 +50.9%	+116 +23.3%
営業利益		394	3.8%	380	3.9%	476	4.8%	+81 +20.7%	+96 +25.4%
税引前利益		397	3.8%	340	3.5%	449	4.5%	+52 +13.1%	+109 +32.2%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		77	0.7%	180	1.8%	309	3.1%	+231 +299.9%	+129 +71.8%
EPS *1 (円)		22.26		52.03		89.38			
為替レート (円、指数)	USD	¥108.74		¥105.00		¥106.01			
	EUR	¥120.85		¥123.00		¥123.67			
	その他通貨*2	100		93		94			
				前期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
				売上収益		-81	+44	-116	-153
				事業利益		+16	+29	-73	-27

*1 EPS : 基本的1株当たり当期利益
*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数

© Seiko Epson Corporation, 2021 15

- 続きまして、通期業績のご説明をします。
- 通期業績は、売上収益9,959億円、事業利益616億円、当期利益は309億円となりました。
- 為替による影響は、前年度に対して、売上収益で約153億円、事業利益で約27億円のマイナスとなりました。

2020年度 通期実績 | 事業セグメント別



➤ こちらは売上収益、事業利益の事業セグメント別内訳です。

➤ 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

プリンティングソリューションズ	2019年度 実績	2020年度 1/28予想	2020年度 実績	(億円)	
				対前期	対1/28 予想
売上収益	7,086	7,000	7,077	-8	+77
プリンター	4,825	5,030	5,093	+268	+63
構成比 オフィス・ホームIJP	84%	87%	87%		
SIDM	7%	5%	5%		
その他	9%	8%	8%		
プロフェッショナルプリンティング	1,979	1,790	1,795	-184	+5
構成比 商業・産業IJP	64%	69%	69%		
小型プリンター他	36%	31%	31%		
その他	282	180	190	-92	+10
事業間売上収益	-1	0	-1	+0	-1
セグメント利益	756	1,000	1,085	+329	+85
セグメント利益率	10.7%	14.3%	15.3%		
◆ オフィス・ホームIJP販売動向 (社内管理値に基づく指標)	FY19 実績	FY20 1/28予想	FY20 実績		
YoY伸長率	+1%	-3%	-2%		
約、万台	1,570	1,520	1,540		
本体 販売数量					
内 大容量インクタンクモデル	1,000	1,030	1,040		
内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	530	460	460		
内 オフィス共有IJP **2	40	30	30		
インク 売上収益					
YoY伸長率	円貨 -8%	円貨 +6%	円貨 +5%		
現地通貨	-5%	+7%	+7%		
オフィス共有IJP 売上収益	オフィス・ホームIJP内比率**2	10%	10%	9%	

プリンター事業

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・在宅印刷需要の高まりを背景に、大容量インクタンクモデルとインク販売が堅調。
 - ・操業停止・物流遅延影響で、数量減
 - ・SIDMは市場停滞が継続

プロフェッショナルプリンティング

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・市場回復が進み下期販売伸長するも、上期影響が響き減収
- ◆ 小型プリンター
 - ・市場が停滞、各地域で減収

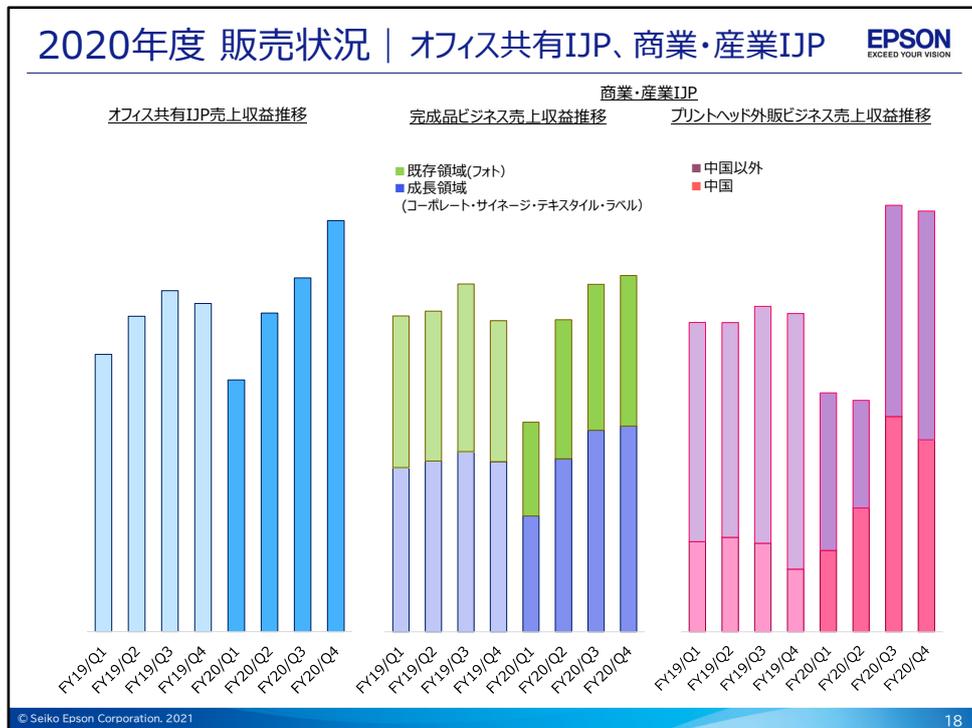
その他

- ・PC販売特需が収束し減収

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/Cモデル、RIPS、IJPの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む
*2 FY20の商品区分変更に伴い、FY19を適及修正

© Seiko Epson Corporation, 2021 17

- プリンティングソリューションズの各事業・商品の通期実績はご覧の通りです。
- 売上収益は、上期は新型コロナウイルス影響を受け減収となりましたが、下期は市場回復を背景に増収となり、通期では前年度並みとなりました。
- プリンター事業においては、上期での工場の稼働停止や、下期からの部材不足や物流の混乱などの影響もある中で、大容量インクタンクモデルの販売は下期から販売増に転じ、1,040万台となりました。
また、インクカートリッジモデルは販売数量を減少させました。一方で販売価格が上昇したことで本体は増収となりました。加えて在宅印刷需要の高まりを受けてインクも増収となりました。
- SIDMは市場停滞が継続し、減収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、商業・産業IJPは新型コロナウイルス影響からの回復に伴い下期は増収となりましたが、通期としては減収となりました。
- 小型プリンターは、上期にイタリアで徴税市場での特需があった前年度に対して、今年度は新型コロナウイルス影響による市場の停滞などもあり、減収となりました。
- その他では、OS切り替えに伴うPCの特需が終息し、減収となりました。
- セグメント利益は、プリンター事業を中心に、インクの増収効果や本体価格の上昇などにより、増益となりました。
- この結果、セグメント利益に占めるプリンター事業の割合は7割半ば程度となりました。



- ここで、2020年度の販売回復状況について、オフィス共有IJPと商業・産業IJPを例にとつてご説明します。
- 左のグラフはオフィス共有IJPの売上収益の推移を、2019年度から2020年度まで四半期毎に表したものです。
- 2020年度は新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が増える中、オフィス市場は落ち込みました。
- しかしながらエプソンは、市場が停滞する中でも第2四半期以降販売を回復し、供給制限がある中ではありますが、前年以上の売上を達成することが出来ました。
- 中央と右のグラフは商業・産業IJPの売上状況を示したものです。
- 中央が完成品ビジネスで、エプソンにとっての成長領域と既存領域とに分けて、右側はプリントヘッド外販ビジネスを、中国向けとそれ以外に分けて、売上収益推移を示しています。
- 完成品ビジネスでは、第2四半期以降の成長領域での新製品効果などもあり、またプリントヘッド外販ビジネスは、下期から中国やその他の地域においても需要が回復したことを背景に、販売を増加させることができました。
- これら成長領域については、今後も新商品の投入を予定しており、長期的な視点で、継続的に強化を進めていきます。

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2019年度 実績	2020年度 1/28予想	2020年度 実績	対前期	対1/28 予想
売上収益	1,833	1,370	1,414	-418	+44
セグメント利益	135	-20	13	-122	+33
セグメント利益率	7.4%	-1.5%	1.0%		

◆ ビジュアルコミュニケーション

- ◆ プロジェクター
 - ・COVID-19影響に加えて、FPD浸食により市場が大幅に縮小し、減収減益
 - ・費用構造の見直し等構造改革の継続

◆ プロジェクターの販売動向
(社内管理値に基づく指標)

	FY19 実績	FY20 1/28予想	FY20 実績
YoY伸長率	-9%	-31%	-30%
本体 販売数量 約、万台	240	160	170

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2019年度 実績	2020年度 1/28予想	2020年度 実績	対前期	対1/28 予想
売上収益	1,529	1,440	1,486	-42	+46
ウェアラブル機器	440	280	281	-158	+1
ロボティクスソリューションズ	212	270	284	+72	+14
マイクロデバイス他	929	910	943	+14	+33
事業間売上収益	-53	-20	-23	+29	-3
セグメント利益	18	30	32	+13	+2
セグメント利益率	1.2%	2.1%	2.2%		

◆ ウェアラブル機器

- ・COVID-19影響が長引き厳しい事業環境が継続

◆ ロボティクスソリューションズ

- ・中国向け案件獲得等販売増

◆ マイクロデバイス他

- ・民生向け、産業用需要が堅調
- ・ファンドリ需要が堅調に推移

- ビジュアルコミュニケーション、および、ウェアラブル・産業プロダクツの通期実績はご覧の通りです。
- ビジュアルコミュニケーションは、新型コロナウイルス影響に加えて、フラットパネルディスプレイの浸食も受けてプロジェクター市場が大きく減少し、減収・減益となりました。
- しかし費用構造の見直しなど、構造改革を進め、セグメント利益として黒字を確保することが出来ました。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、減収・増益となりました。
- ウェアラブル機器は、新型コロナウイルス影響が長期化し、市場が停滞する中で大幅な減収となりました。厳しい市場環境が続く中、構造改革を進めています。
- ロボティクスソリューションズは、中国向けなどで案件獲得により増収となりました。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスはWi-Fiモジュール等民生向け、産業用需要が堅調に推移し、また半導体はファンドリ需要が堅調に推移し、増収となりました。

- ご説明のポイント
- 第4四半期実績
- 2020年度通期実績
- **2021年度通期業績予想**
- 株主還元
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

2021年度 通期業績予想 | ハイライト

EPSON
EXCEED YOUR VISION

	2020年度		2021年度		対前期		
	(億円)	実績	%	予想	%	増減比	増減比
売上収益		9,959		10,700		+740	+7.4%
事業利益		616	6.2%	600	5.6%	-16	-2.7%
営業利益		476	4.8%	570	5.3%	+93	+19.6%
税引前利益		449	4.5%	550	5.1%	+100	+22.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		309	3.1%	380	3.6%	+70	+22.9%
EPS*1 (円)		89.38		109.83			
為替レート (円、指数)	USD	¥106.01		¥107.00			
	EUR	¥123.67		¥127.00			
	その他通貨*2	100		103			
				為替感応度*3	USD	EUR	その他通貨合計
				売上収益	△30	△14	△30
				事業利益	+7	△9	△13

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益

*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、前期を100とした指数

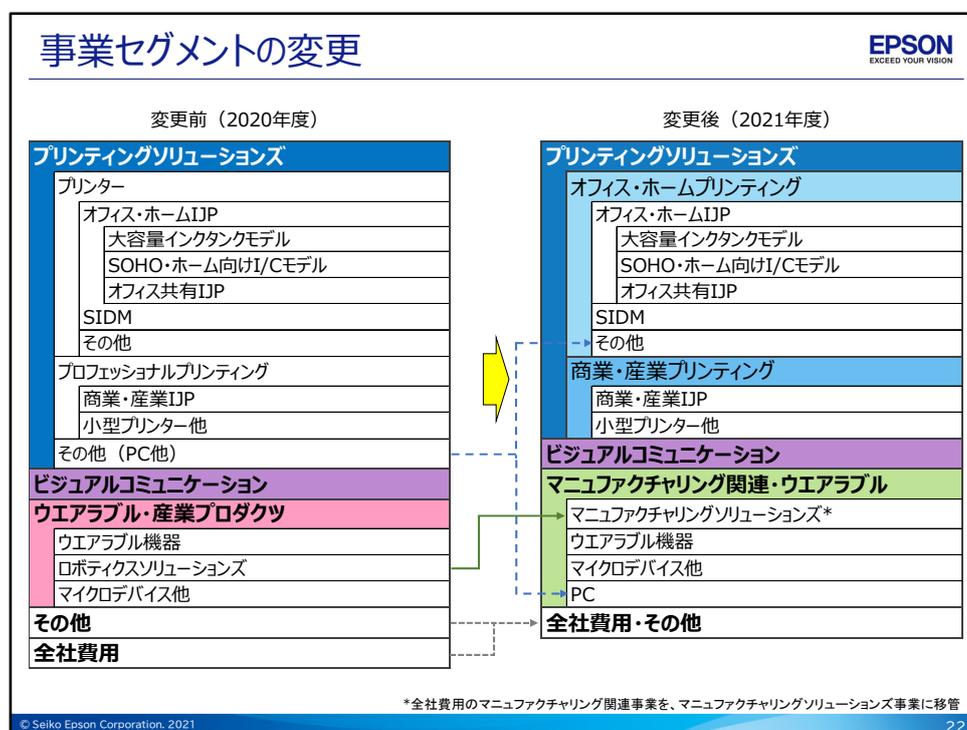
*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）、
その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

© Seiko Epson Corporation, 2021

21

- 2021年度通期業績予想はご覧のとおりです。
- 売上収益は、1兆700億円、
事業利益は、600億円、
当期利益は、380億円 となります。
- 為替前提は、USDドルは107円、ユーロは127円としました。
また、その他通貨は、2020年度を指数100とした場合、2021年度を103としています。
その結果、2021年度通期の為替変動による影響額は、
売上収益で 約170億円のプラス
事業利益で 約70億円のプラス を見込みます。

事業セグメントの変更



- セグメント別の業績予想を説明するにあたり、事業セグメントの変更についてご説明します。
- 2021年度から、Epson 25 Renewedで発表した事業領域・戦略に基づいたセグメントに変更しました。
- 具体的な内容は、ご覧のとおりです。
- プリンティングソリューションズ事業セグメントを、「オフィス・ホームプリンティング」と「商業・産業プリンティング」に分け、売上収益に加えて事業利益も開示します。
- ロボティクスは、ロボット事業に小型射出成形機などのマニファクチャリング関連事業を加えて、マニファクチャリングソリューションズ事業としています。

- 世界経済は、COVID-19影響からの正常化が徐々に進む
- 物流の混乱は下期には解消、部材供給は下期も不透明
- 成長領域への投資と成熟領域の収益改善を進める

プリンティング
ソリューションズ

- オフィス共有IJP、商業・産業IJPの売上伸長
- オフィス・ホームプリンティングの在宅印刷需要は下期に一段落
- 市場環境の正常化と販促費用投入を想定

ビジュアル
コミュニケーション

- FPD浸食を受けプロジェクター市場は大きく落ち込んだ前年度から微増に留まる
- 構造改革による事業利益改善を継続

マニュファクチャリング関連・
ウェアラブル

- マニュファクチャリングソリューションズは成長投資の継続
- ウォッチ市場はCOVID-19影響が長期化
- マイクロデバイスは堅調な需要が継続する見込み

- 2021年度通期業績予想の前提をご説明します。
- 世界経済は、新型コロナウイルス影響からの正常化が徐々に進む前提です。
- 物流の混乱は下期に正常化に向かいますが、部材供給については下期以降も不透明な状況です。
- こうした状況下、Epson 25 Renewedの中でも示した通り、成長領域への投資と、成熟領域の収益改善を進めていきます。
- これらを踏まえたセグメントごとの前提をご説明します。
- 初めに、プリンティングソリューションズです。
- 新型コロナウイルス影響からの回復を背景に、成長領域と位置付けたオフィス共有IJPと、ラインナップ拡充を進める商業・産業IJPの売上を着実に伸長させていきます。
- 一方で、オフィス・ホームプリンティングの在宅印刷需要は下期に一段落する前提としています。
- また、市場環境が正常化に向かうと想定し、販促費用投入を織り込んでいます。
- ビジュアルコミュニケーションについては、フラットパネルディスプレイの浸食もあり、プロジェクター市場は大きく落ち込んだ前年度からは、微増に留まると考えています。
- そのような状況のもと、すでに進めている構造改革による収益性改善を継続していきます。
- マニュファクチャリング関連・ウェアラブルでは、マニュファクチャリングソリューションズは将来成長に向けて経営資源を投入していきます。
- 一方、ウォッチ市場は新型コロナウイルス影響が長期化すると予想しており、厳しい事業環境下、構造改革を推し進めます。
- マイクロデバイスは、足元の堅調な需要が今後も継続すると見込みます。

2021年度 通期業績予想 | 事業セグメント別



- セグメント別の売上収益、事業利益は、ご覧の通りです。
- 以降のスライドで、セグメント別にご説明します。

2021年度 通期業績予想 | プリンティングソリューションズ(1) EPSON EXCEED YOUR VISION

プリンティングソリューションズ	2020年度 実績	2021年度 予想	対前期
売上収益	6,911	7,530	+618
セグメント利益	1,062	970	-92
セグメント利益率	15.4%	12.9%	

オフィス・ホームプリンティング	2020年度 実績	2021年度 予想	対前期
売上収益	5,117	5,420	+302
構成比 オフィス・ホームIJP ^{*1}	86%	87%	
SIDM	5%	5%	
その他	9%	8%	
事業利益	825	650	-175
事業利益率	16.1%	12.0%	

◆ 販売動向 (社内管理値に基づく指標)	FY20 実績	FY21 予想
オフィス・ホームIJP 本体販売数量		
伸長率	-2%	+16%
約、万台	1,540	1,790
内 大容量インクタンクモデル	1,040	1,250
内 SOHO・ホーム向けI/CEモデル	460	510
内 オフィス共有IJP ^{*1}	30	30
オフィス・ホームIJP インク売上収益伸長率	+6%	-5%
(円貨) (現地通貨)	+7%	-
オフィス・ホームIJP内 オフィス共有IJP売上収益比率	9%	12%

オフィス・ホームプリンティング

- ◆ オフィス・ホームIJP
 - ・大容量インクタンクモデルは、エマージング地域に加え、先進国でも販売増
 - ・SOHO・ホーム向けは、在宅印刷需要が収束に向かう中、インク販売増は一段落
 - ・オフィス共有IJPは、レーザープリンターからの置き換えを進める
 - ・SIDMは市場が縮小

*1 オフィス共有IJP：高プリントボリュームオフィス向けプリンターI/CEモデル、RIPS、LIDの本体・インク、スマートチャージなどの課金や有償サービスを含む

© Seiko Epson Corporation, 2021 25

- プリンティングソリューションズの通期業績予想はご覧の通りです。
 - プリンティングソリューションズは増収減益となります。
 - オフィス・ホームプリンティングでは、
 - IJPは、新型コロナウイルス影響からの経済回復により、前年度を大きく上回る1,790万台の販売を見込みます。
 - 大容量インクタンクモデルは、新型コロナウイルス影響からの回復が進むエマージング地域に加え、先進国でも販売増を見込み、全世界での販売台数は、1,250万台を予想します。
 - インクカートリッジモデルも、供給制限のあった前年と比較し、販売台数の増加を予想します。
 - オフィス共有IJPは、レーザープリンターからの置き換えを着実に進めます。
 - SIDMは、前年度並みの売上収益を見込みます。
 - 以上から、オフィス・ホームプリンティング全体では、増収を予想します。
 - 一方で、事業利益は減益の予想です。
 - 前年度の特異要因であった、在宅印刷需要によるインクの販売増は、今年度は落ち着きを見せると予想します。
 - エプソンを含め、各社の供給制約が解消に向かうことから、前年度に見られた販売価格の上昇は、今年度は見込んでいません。
- また、販売プロモーションも再開し、そのための費用を投下します。

2021年度 通期業績予想 | プリンティングソリューションズ(2) **EPSON** EXCEED YOUR VISION

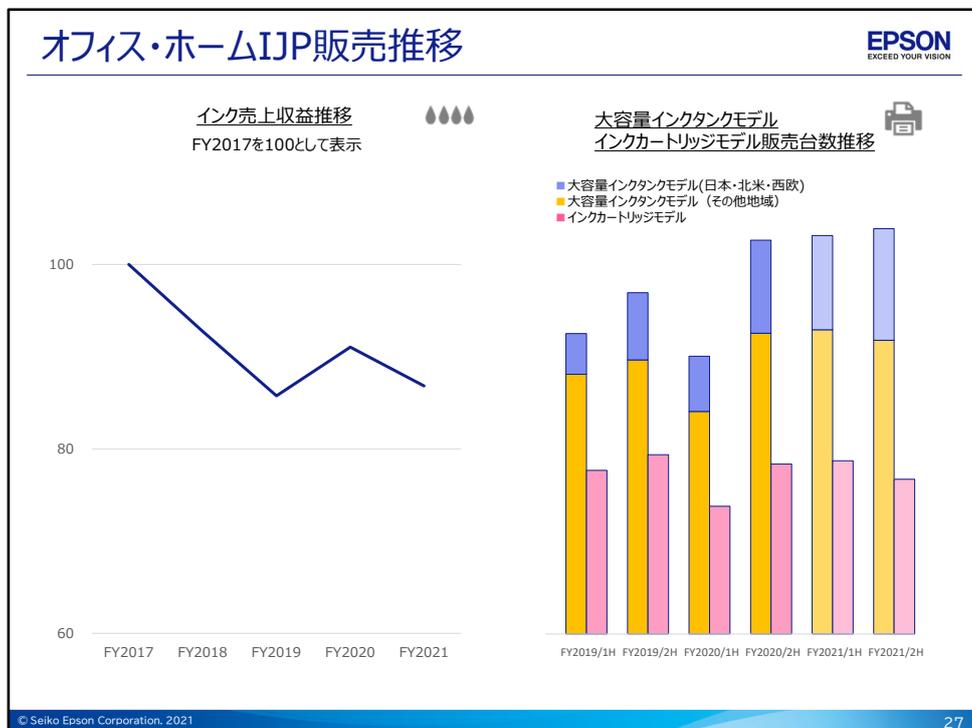
商業・産業プリンティング	(億円)		
	2020年度 実績	2021年度 予想	対前期
売上収益	1,795	2,110	+314
商業・産業IJP	1,230	1,490	+259
小型P他	564	620	+55
事業利益	236	320	+83
事業利益率	13.2%	15.2%	

商業・産業プリンティング

- ◆ 商業・産業IJP
 - ・完成品は、新商品群の投入効果により販売増
 - ・プリントヘッド外販ビジネスは、中国を中心に販売増
- ◆ 小型プリンター他
 - ・COVID-19影響の長期化により、回復傾向にあるも、限定的

© Seiko Epson Corporation, 2021 26

- 成長領域である商業・産業プリンティングは、増収増益を見込みます。
- 完成品ビジネスは、ラインアップ拡充を行い、前年度に引き続き、新商品群を市場投入します。加えて、ソリューション提案を強化することにより、コーポレート、サイネージ、テキスタイル、ラベルといった成長領域で販売を伸長させます。
- プrintヘッド外販ビジネスは、最大市場である中国でのシェア拡大などにより、着実な成長を見込みます。



➤ ここで、オフィス・ホームIJPの販売推移をご説明します。

➤ 左のグラフは、インクの売上収益について、2017年度を100とした場合の年度毎の推移を表したものです。

➤ 大容量インクタンクモデルへのシフトを進める中、インクの売上収益は前年度より漸減傾向にあります。

➤ しかしながら、2020年度は在宅印刷需要の高まりがあり、ご覧の通り前年度より大きく売上が伸長しました。

この在宅印刷需要については、地域によってテレワークの定着などがあるものの、今年度は一段落すると想定しており、インク売上収益についても前年度より下がっていくことを予想しています。

➤ 右のグラフは、IJP本体の販売台数の推移を表しています。

➤ こちらは2019年度と2020年度の実績と、2021年の見込みを、上期・下期で表しています。

➤ オレンジの棒がエマージング地域向け大容量インクタンクモデル販売です。

青が先進国向けです。

ピンクの棒がインクカートリッジモデルになります。

➤ 大容量インクタンクモデルについては、2020年度上期に店舗休業・移動制限などの影響により販売が落ち込みましたが、下期は急回復させることが出来ました。

➤ 2021年度は部材供給不足を織り込みますが、さらに販売を伸ばすとともに、先進国向けの販売比率を増やしていきます。

➤ 一方でエマージング市場では下期に在宅印刷需要が一段落すると想定しています。

➤ インクカートリッジモデルは在宅印刷需要が落ち着く中、また大容量インクタンクモデルへのシフトをさらに推し進める戦略のもと、下期から減少することを予想しています。

2021年度 通期業績予想

ビジュアルコミュニケーション
 マニファクチャリング関連・ウェアラブル **EPSON**
EXCEED YOUR VISION

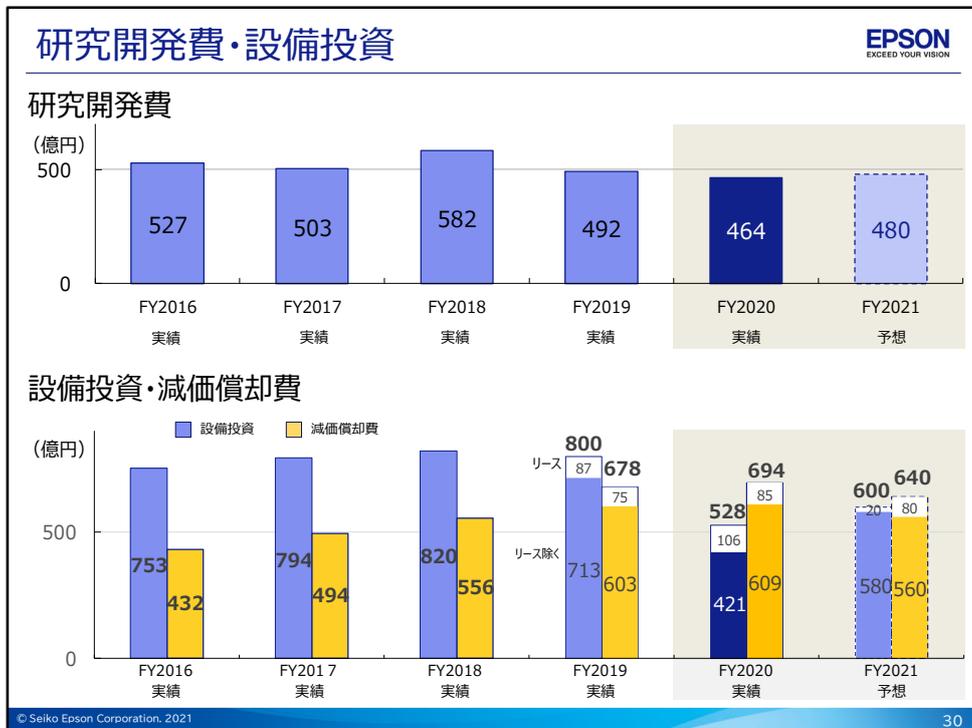
		(億円)		
ビジュアルコミュニケーション	2020年度 実績	2021年度 予想	対前期	
売上収益	1,414	1,460	+45	ビジュアルコミュニケーション ◆ プロジェクター ・市場はCOVID-19影響から回復するも、FPD影響で微増 ・収益性の向上に向け、事業構造改革を継続
セグメント利益	13	50	+36	
セグメント利益率	1.0%	3.4%		
◆ プロジェクターの販売動向 (社内管理値に基づく指標)		FY20 実績	FY21 予想	
本体 販売数量	伸長率	-30%	+4%	
	約、万台	170	170	
		(億円)		
マニファクチャリング関連・ウェアラブル	2020年度 実績	2021年度 予想	対前期	
売上収益	1,654	1,700	+45	◆ マニファクチャリングソリューションズ ・IC/ハンドラー事業を譲渡 ・ロボット事業は引き続き堅調 ◆ ウェアラブル機器 ・ウオッチで厳しい事業環境が継続 ・事業構造改革で収益性を改善 ◆ マイクロデバイス他 ・IoT、5G、ADAS市場の拡大を捉え、販売拡大
マニファクチャリングソリューションズ	286	240	-46	
ウェアラブル機器	281	310	+28	
マイクロデバイス他	943	1,010	+66	
PC	165	180	+14	
事業間売上収益	-23	-40	-16	
セグメント利益	52	100	+47	
セグメント利益率	3.2%	5.9%		

- ビジュアルコミュニケーションは、ディスプレイ市場が新型コロナウイルス影響から回復基調にあるものの、引き続きフラットパネルディスプレイの低価格化や、電子部品等の不足の影響もあり、プロジェクター市場の大きな回復は見込んでいません。
- 大幅な回復が見込めない市場環境においても、利益を創出し続ける事業を目指し、構造改革を継続します。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、増収増益を見込んでいます。
- マニファクチャリングソリューションズは、ICハンドラー事業の譲渡にともない減収となるものの、ロボットは引き続き堅調に推移することを見込みます。
- ウェアラブル機器は、厳しい市場環境が継続するという想定のもと、事業構造改革により、収益性の改善に取り組みます。
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスを中心に、IoTなど通信・ネットワーク市場の拡大を捉え、着実に販売を拡大させていきます。

		2025年度目標	2021年度予想
成長領域	オフィスプリンティング 商業・産業プリンティング プリントヘッド外販 生産システム	2020→25年度 売上収益 CAGR +15% 以上	2020→21年度 売上収益 +16%
	プロジェクション ウオッチ	2020→25年度 ROS改善 +10pt 以上	2020→21年度 ROS改善 +6pt
成熟領域	ホームプリンティング マイクロデバイス	継続的に ROS 15% 以上	2021年度 ROS 17%
	センシング 環境ビジネス	2025年度 売上収益 100 億円以上	2021年度 売上収益 20 億円

© Seiko Epson Corporation, 2021 29

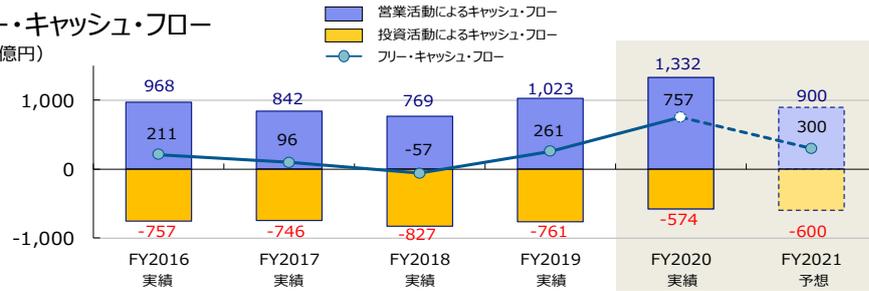
- こちらの表は、Epson 25 Renewedで示した、領域ごとの業績目標を表したものです。
- 「成長領域」「成熟領域」「新領域」の各領域ごとに、中央に2025年度での財務目標を、その右に2021年度の業績予想を記載しました。
- 成長領域では、2021年度の売上収益を、2020年度から16%伸長させる計画です。
- 成熟領域のうち、プロジェクションとウオッチは、構造改革を進め2025年度までにROSを10ポイント以上改善させるところ、2021年度では6ポイント改善させる計画です。
- また、ホームプリンティングとマイクロデバイスは、ROSを17%に維持・向上させる見込みです。
- 新領域は2025年度までに売上収益を100億円以上とすると、2021年度では20億円を見込みます。
- ご覧の通り、2021年度は、中期目標の実現に向け、着実に進めていきます。



- 研究開発費、および設備投資、減価償却費の実績と予想は、ご覧のとおりです。
- 先ほどご説明したとおり、2020年度に、ウェアラブル機器事業において減損損失を計上しました。
- また、ビジュアルコミュニケーション事業の機械装置の耐用年数の見直しを行いました。
事業構造改革において生産戦略を見直した結果、使用負荷の軽減により従来の耐用年数よりも長期間使用可能であることが明らかになったためです。
- これらにより、2021年度の減価償却費には、約40億円の減少影響を見込んでいます。

フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

フリー・キャッシュ・フロー (億円)



主な経営指標

(%)	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 実績	FY2020 実績	FY2021 予想
ROS *1	6.4	6.8	6.5	3.9	6.2	5.6
ROA *2	6.9	7.4	6.8	3.9	5.6	5.2
ROE *3	10.1	8.3	10.2	1.5	5.9	6.8
ROIC *4	7.4	7.9	7.2	4.1	5.6	5.2

*1 ROS : 売上収益事業利益率 = 事業利益 / 売上収益
 *2 ROA : 資産合計事業利益率 = 事業利益 / 期首・期末資産合計平均
 *3 ROE : 親会社所有者帰属持分当期利益率 = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均
 *4 ROIC : 税引後事業利益 / (親会社の所有者に帰属する持分 + 有利子負債) 親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末平均

- フリー・キャッシュ・フローおよび主な経営指標の予想になります。
- フリー・キャッシュ・フローは、2020年度は、利益増により営業キャッシュフローが増加したことにより、757億円へと大幅に増加しました。
- 2021年度は、300億円を予想します。

- ご説明のポイント
- 第4四半期実績
- 2020年度通期実績
- 2021年度通期業績予想
- **株主還元**
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

■ 配当の基本方針

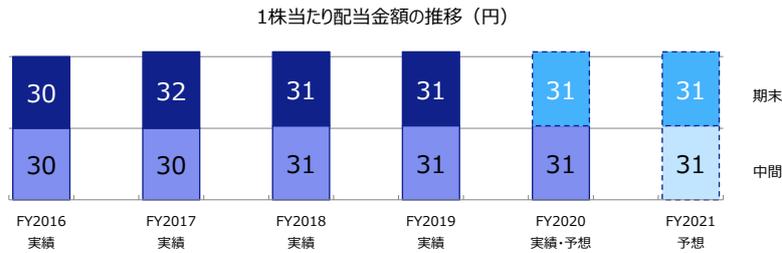
- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組む
- 中期的には連結配当性向*40%程度を目標

*本業による利益を示す事業利益から法定実効税率相当額を控除した利益をベースに算出

■ 2021年度配当予想

- 2020年度と同額の1株当たり62円

■ 配当実績・予想



© Seiko Epson Corporation, 2021

33

- こちらは、株主還元についてです。
- 当社は、強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組むことを、配当の基本方針に据えています。
- また、安定的な利益創出により、連結配当性向40%を目標としています。

- 2021年度の配当は、前年度と同額の、1株当たり62円の予想です。

- Epson 25 Renewedの目標に向け、戦略は着実に進展する見込みで、財務基盤も万全です。
- 足元の環境は、まだまだ不透明な状況ではありますが、変化に迅速・果断に対応し、株主のみなさまをはじめとするステークホルダーのご期待に応えてまいります。

- ご説明のポイント
- 第4四半期実績
- 2020年度通期実績
- 2021年度通期業績予想
- 株主還元
- 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

■ 4月より、長野県内の全拠点*の使用電力を100%再生可能エネルギー化

● 100%再生可能エネルギー化へのステップ

- 2021年4月1日 全ての長野県内拠点*
- 2021年度 全ての日本国内拠点*
- 2023年 海外拠点を含むエプソングループの全拠点*

* 販売拠点などの賃借物件は除く

■ 国際イニシアチブ「RE100」に加盟

● 100%再生可能エネルギー化へのコミットメント



- 続いて、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて、Epson 25 Renewed発表後の進展をご説明します。
- エプソンは、環境ビジョン2050で掲げた「カーボンマイナス」の実現に向け、2023年までに、グループ全拠点の使用電力の100%を再生可能エネルギー化する目標を掲げています。
- その最初のステップとして、4月より、長野県内の全拠点で使用する電力の100%を、再生可能エネルギーに置き換えました。
- 合わせて、企業の再生可能エネルギーへの転換を目指す国際イニシアチブ「RE100」にも加盟しました。
- これは、エプソングループで使用する電力の100%再生可能エネルギー化と、パリ協定の目標達成に対する、エプソンのコミットメントを示したものです。

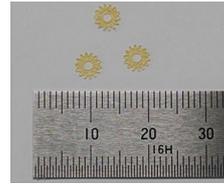
■ (株)ユーグレナ、日本電気(株)と共同で、「パラレジンジャパンコンソーシアム」を設立

- パラレジン（バイオマスプラスチック）の技術開発・普及促進を目的
- エプソンは、ドライファイバーテクノロジーを応用した糖化プロセス*の確立に貢献

*使用済みの紙を細長い繊維に分解し、繊維に含まれるセルロースを酵素分解等でユーグレナの培養に必要な糖源を作り出すプロセス



加工前のパラレジンペレット
画像提供元：(株)ユーグレナ



エプソンによる製品用精密部品
成型テスト品

© Seiko Epson Corporation, 2021

36

- また、株式会社ユーグレナ、日本電気株式会社と共同で、「パラレジンジャパンコンソーシアム」を設立しました。
- これは、バイオマスプラスチックの一つである「パラレジン」の技術開発、普及促進を目的としたものです。
- ユーグレナの培養に必要な栄養分を作り出すため、ドライファイバーテクノロジーを応用した糖化プロセスの確立に貢献します。
- バイオマスプラスチックの普及推進により、化石資源由来樹脂を代替し、環境負荷低減、二酸化炭素排出量削減などを通じて、脱炭素社会実現に貢献します。
- このような取り組みを通じて、「持続可能でこころ豊かな社会」の実現を目指します。
- 以上



補足資料

主要製品の販売動向

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。伸長率はYoY

*1 オフィス共有IJP：高アットホームI/Cモデル向けプリンター
I/Cモデル、I/Cモデル向けI/Cモデル、スマートワークなどの課金や併用サービスを含む

*2 FY20の製品区分変更に伴い、FY19年数値修正

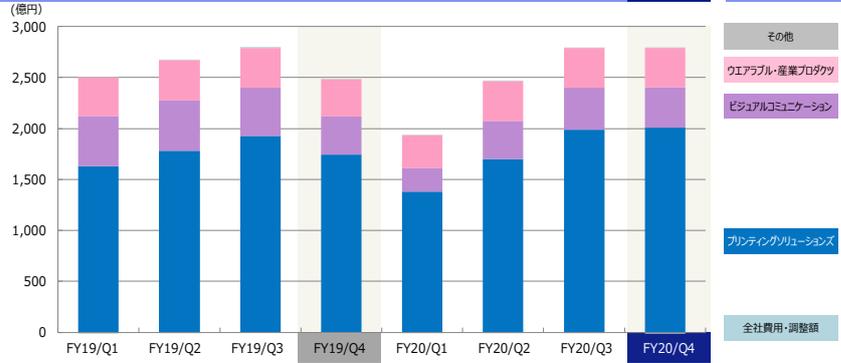
		USD	FY2019 通期 実績	FY2020 Q1 実績	FY2020 Q2 実績	FY2020 Q3 実績	FY2020 Q4 実績	FY2020 通期 実績	FY2021 通期 予想	
		EUR	120.85	118.39	124.10	124.51	127.68	123.67	127.00	
プリンティング ソリューションズ	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-0%	-14%	+2%	+17%	+36%	+17%	
		売上収益（現地通貨）	伸長率	+4%	-8%	+5%	+22%	+37%	+15%	
	内	本体数量	伸長率	+1%	-17%	-9%	+2%	+14%	-2%	+16%
		大容量インクタンク モデル	台数	約1,570万台	-	-	-	-	約1,540万台	約1,790万台
		SOHO・ホーム向け I/Cモデル	台数	約1,000万台	-	-	-	-	約1,040万台	約1,250万台
		内	台数	約530万台	-	-	-	-	約460万台	約510万台
		オフィス共有IJP	台数	約40万台	-	-	-	-	約30万台	約30万台
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比	48%	-	-	-	-	47%	42%
		売上収益（円貨）	伸長率	-8%	+15%	+7%	+5%	-1%	+6%	-5%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-5%	+19%	+8%	+6%	-1%	+7%	-
	オフィス共有 IJP*1 本体+インク	オフィス・ホームIJP内 売上収益比率*2	構成比	10%	9%	10%	9%	11%	9%	12%
	SIDM 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-19%	-43%	-16%	-19%	+28%	-17%	-2%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-16%	-40%	-15%	-18%	+26%	-16%	-
		本体数量	伸長率	-16%	-39%	-16%	-22%	+33%	-16%	-9%
ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益（円貨）	伸長率	-9%	-52%	-24%	-13%	+4%	-23%	+5%
		売上収益（現地通貨）	伸長率	-6%	-50%	-24%	-12%	+3%	-22%	-
		本体数量	伸長率	-9%	-57%	-32%	-20%	-6%	-30%	+4%
		本体数量	台数	約240万台	-	-	-	-	約170万台	約170万台

四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	105.86
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	127.68

売上収益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	対前年同期
プリンティングソリューションズ	1,632	1,780	1,929	1,744	1,380	1,698	1,990	2,008	+263
ビジュアルコミュニケーション	492	496	468	375	235	376	407	395	+19
ウェアラブル・産業プロダクト	381	393	394	360	318	388	394	385	+25
その他	2	2	2	2	1	2	2	2	-0
全社費用・調整額	-11	-7	3	-6	-3	-6	-6	-10	-4
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	2,788	2,779	+303

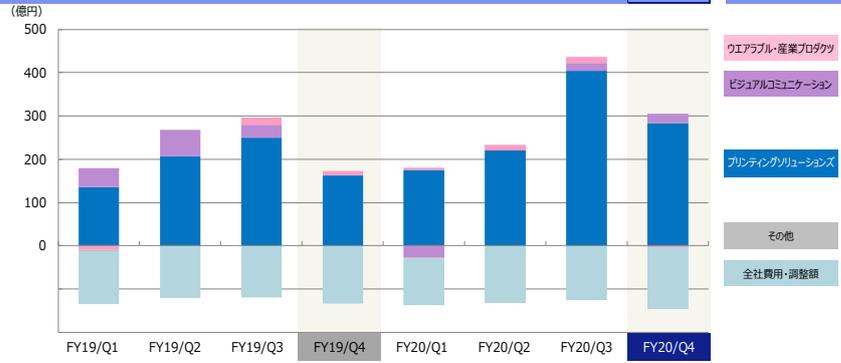


四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	105.86
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	127.68

事業利益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	対前年同期
プリンティングソリューションズ	136	207	250	162	175	220	405	283	+121
ビジュアルコミュニケーション	43	61	29	0	-27	1	17	22	+21
ウエアラブル・産業プロダクツ	-10	-0	17	11	6	12	15	-3	-14
その他	-2	-1	-1	-0	-2	-1	-1	-1	-0
全社費用・調整額	-123	-120	-118	-133	-109	-131	-125	-143	-10
連結合計	45	146	176	40	43	102	311	157	+117



海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート (円)	USD	109.93	107.31	108.72	109.00	107.54	106.16	104.48	105.86
	EUR	123.54	119.34	120.35	120.18	118.39	124.10	124.51	127.68

売上収益 (億円)	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	対前年同期
米州	745	717	712	753	598	719	733	827	+74
欧州	479	537	593	529	397	500	587	598	+69
アジア・オセアニア	725	758	744	585	495	739	797	749	+163
海外売上収益計	1,951	2,014	2,051	1,869	1,490	1,959	2,119	2,175	+306
連結合計	2,496	2,664	2,798	2,476	1,932	2,459	2,788	2,779	+303

構成比	FY19/Q1	FY19/Q2	FY19/Q3	FY19/Q4	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4
米州	29.9%	26.9%	25.5%	30.4%	31.0%	29.3%	26.3%	29.8%
欧州	19.2%	20.2%	21.2%	21.4%	20.6%	20.4%	21.1%	21.5%
アジア・オセアニア	29.1%	28.5%	26.6%	23.7%	25.6%	30.1%	28.6%	27.0%
海外売上収益計	78.2%	75.6%	73.3%	75.5%	77.2%	79.7%	76.0%	78.3%

従業員数

期末従業員数 (人)	2017/3末	2018/3末	2019/3末	2020/3末	2021/3末	対前期末
国内	19,175	19,436	19,456	19,558	19,470	-88
海外	53,245	56,955	57,191	56,050	60,474	+4,424
連結合計	72,420	76,391	76,647	75,608	79,944	+4,336

財務データ (2020年度)

		(億円)										
		FY2018	FY2019	FY2019	FY2019	FY2019	FY2019	FY2020	FY2020	FY2020	FY2020	FY2020
		実績	Q1	Q2	Q3	Q4	実績	Q1	Q2	Q3	Q4	実績
			実績									
為替レート	USD	110.86	109.93	107.31	108.72	109.00	108.74	107.54	106.16	104.48	105.86	106.01
	EUR	128.40	123.54	119.34	120.35	120.18	120.85	118.39	124.10	124.51	127.68	123.67
プリンティング	売上収益	7,236	1,632	1,780	1,929	1,744	7,086	1,380	1,698	1,990	2,008	7,077
ソリューションズ	セグメント利益	945	136	207	250	162	756	175	220	405	283	1,085
ビジュアル	売上収益	2,033	492	496	468	375	1,833	235	376	407	395	1,414
コミュニケーション	セグメント利益	212	43	61	29	0	135	-27	1	17	22	13
ウェアラブル・産業プロダクツ	売上収益	1,634	381	393	394	360	1,529	318	388	394	385	1,486
	セグメント利益	55	-10	0	17	11	18	6	12	15	-3	32
その他	売上収益	9	2	2	2	2	9	1	2	2	2	8
	セグメント利益	-5	-2	-1	-1	0	-5	-2	-1	-1	-1	-6
全社・調整額	売上収益	-16	-11	-7	3	-6	-22	-3	-6	-6	-10	-27
	セグメント利益	-502	-123	-120	-118	-133	-496	-109	-131	-125	-143	-508
連結合計	売上収益	10,896	2,496	2,665	2,798	2,476	10,436	1,932	2,459	2,788	2,780	9,959
	事業利益	704	45	146	177	40	408	44	103	312	158	616
	ROS	6.5%	1.8%	5.5%	6.3%	1.6%	3.9%	2.3%	4.2%	11.2%	5.7%	6.2%
	営業CF	769	139	145	380	358	1,023	118	336	476	400	1,332
	FCF	-57	-36	-98	220	176	261	-54	174	355	282	757
研究開発費		582	-	-	-	-	492	-	-	-	-	464
設備投資	プリンティングソリューションズ	468	130	94	72	138	435	44	92	65	70	272
	ビジュアルコミュニケーション	114	23	23	34	59	141	20	27	14	18	80
FY19以降	ウェアラブル・産業プロダクツ	139	40	37	29	40	147	16	26	18	43	105
リース含む	その他・全社費用	98	14	15	19	26	75	7	16	19	26	69
減価償却費	プリンティングソリューションズ	306	90	91	96	99	377	96	94	94	95	381
	ビジュアルコミュニケーション	98	27	29	30	30	117	31	31	33	33	130
FY19以降	ウェアラブル・産業プロダクツ	91	24	25	26	26	103	26	25	25	23	100
リース含む	その他・全社費用	59	19	19	19	20	79	21	21	19	19	81

財務データ (2021年度)

		(億円)	
		FY2020	FY2021
		実績	予想
為替レート	USD	106.01	107.00
(円)	EUR	123.67	127.00
プリンティング	売上収益	6,911	7,530
ソリューションズ	セグメント利益	1,062	970
オフィス・ホーム	売上収益	5,117	5,420
プリンティング	セグメント利益	825	650
商業・産業	売上収益	1,795	2,110
プリンティング	セグメント利益	236	320
デジタル	売上収益	1,414	1,460
コミュニケーション	セグメント利益	13	50
マニファクチャリング関連	売上収益	1,654	1,700
・ウエアラブル	セグメント利益	52	100
全社費用・その他	売上収益	-21	10
・調整額	セグメント利益	-512	-520
	売上収益	9,959	10,700
	事業利益	616	600
連結合計	ROS	6.2%	5.6%
	営業CF	1,332	900
	FCF	757	300
研究開発費		464	480
	プリンティングソリューションズ	272	330
	デジタルコミュニケーション	80	60
設備投資			
	マニファクチャリング関連・ウエアラブル	105	130
	全社費用・その他	69	80
	プリンティングソリューションズ	-	370
	デジタルコミュニケーション	-	100
減価償却費			
	マニファクチャリング関連・ウエアラブル	-	90
	全社費用・その他	-	80

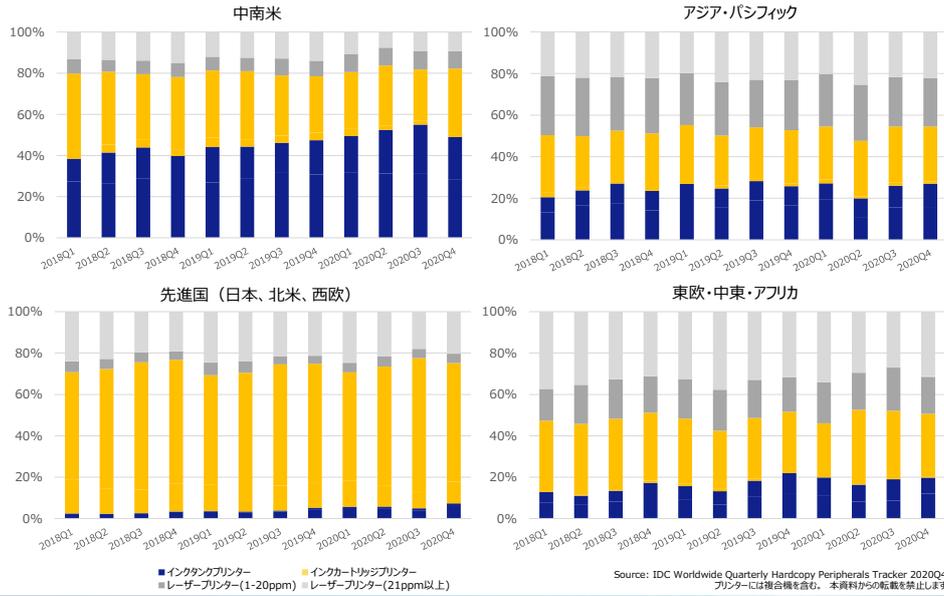
(億円)

		FY2019	FY2020	FY2021	FY2023	FY2025
		実績	実績	予想	Epson 25 Renewed 目標	Epson 25 Renewed 目標
為替レート (円)	USD	108.74	106.01	107.00	-	-
	EUR	120.85	123.67	127.00	-	-
連結合計	売上収益	10,436	9,959	10,700	-	-
	事業利益	408	616	600	-	-
	ROS	3.9%	6.2%	5.6%	8%以上	10%以上
	ROA	3.9%	5.6%	5.2%	-	-
	ROE	1.5%	5.9%	6.8%	10%以上	13%以上
	ROIC	4.1%	5.6%	5.2%	8%以上	11%以上

大容量インクタンクモデルの浸透（数量構成比）



A4サイズプリンタータイプ別市場推移（暦年）



Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター（複合機含む）
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printers
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
フォト	フォト、グラフィックス、プルーフ、CAD印刷向け大判プリンターなどが含まれる
商業・産業IJP	商品カテゴリの1つ。商業・産業用途向け大判インクジェットプリンター、プリントヘッド外販ビジネスを含む
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクカートリッジモデル、大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル（RIPS）、高速ラインインクジェット（LIJ）の総称
分散印刷	同一内容の印刷物を複数のプリンターを用いて印刷する方法
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode（有機EL）
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

ビジネス領域 (2020年度)

イノベーション	インクジェットイノベーション	ビジュアルイノベーション	ウェアラブルイノベーション	ロボティクスイノベーション		
セグメント	プリンティングソリューションズ	ビジュアルコミュニケーション	ウェアラブル・産業プロダクト			
事業・主要製品	プリンター		プロジェクター	ウェアラブル機器	ロボティクスソリューションズ	マイクロデバイス他
	オフィス・ホームIJP		高光束	エプソンブランド	ロボット	マイコンデバイス
	大容量インクタンクモデル	オフィス共有	超短焦点	TRUME	スカラ	水晶
	SOHO・ホーム	大容量インクパック (RIPS)	スタンダード	オリエント	ムーブメント	EPSON ORIGINAL JAPAN 半導体
	インクカートリッジモデル	高容量ライミングジェット複合機 (LD)	ホーム	セイコービジネス	6軸	ICハンドラー
SIDM	PaperLab	小型	ホーム	セイコービジネス	ICハンドラー	微細合金粉末
スキャナー	レーザープリンター	ライティング	スマートグラス	ムーブメント	セイコービジネス	表面処理加工
プロフェッショナルプリンティング	商業・産業IJP	小型プリンター他		セイコービジネス	セイコービジネス	
フォト	サイネージ	テキスタイル	ラベル	ヘッド外版	小型プリンター	
PC他	エプソンダイレクトPC					

ビジネス領域 (2021年度)



イノベーション	オフィス・ホーム プリンティング イノベーション	商業・産業 プリンティング イノベーション	ビジュアル イノベーション	マニファクチャリング イノベーション	ライフスタイル イノベーション	
セグメント	プリンティングソリューションズ		ビジュアル コミュニケーション	マニファクチャリング関連・ウェアラブル		
事業 ・ 主要製品	オフィス・ ホームIDP	商業・産業IDP	プロジェクター	マニファクチャリング ソリューションズ	ウェアラブル機器	マイクロ デバイス他
	(大容量インクタンクモデル) SOHO・ホーム インクカートリッジモデル オフィス共有 大容量インクパック モデル(RIPS) 産業 ラインインクジェット 複合機 (LI) オフィス向け インクカートリッジモデル SIDM スキャナー PaperLab レーザープリンター	フォト コーポレート サイネージ テキスタイル ラベル ヘッド外販 小型プリンター他 	高光束 超短焦点 スタンダード ホーム 小型 ライティング スマートグラス 	ロボット スカフ 6軸 オプション 	エプソンブランド TRUME オリент ムーブメント セイコービジネス 微細合金粉末 表面処理加工 	水晶 半導体 PC エプソンタイレクトPC
	© Seiko Epson Corporation, 2021					
	49					

EPSON
EXCEED YOUR VISION